平成19年5月20日

第31回東邦会卒業生医学講演会

咽喉頭異常感(症)の診断と治療

東邦大学医学部耳鼻咽喉科学第2講座
大越俊夫

咽喉頭異常感の歴史（大田文彦：JOHNS　15，1999より抜粋）

舌根扁桃肥大説

1899年：佐藤敏夫：　舌根扁桃肥大ト精神障害ノ関係ノ補遺。
1927年：岡田和一郎：　所謂「ヒステリー」球巨大口蓋垂トノ関係。
1952年：柏戸貞一他：　喉頭蓋軟骨性咽喉頭神経症について。

他覚的所見の見つからない神経症説

1928年：香宗我部壽：　咽喉頭知覚異常の治療経験

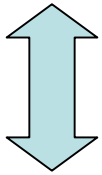
咽喉頭部異常感
1958年：柏戸貞一
1967年：三宅　弘
1968年：岩田逸夫

咽喉頭異常感症
1968年：大藤敏三
1974年：三宅　弘

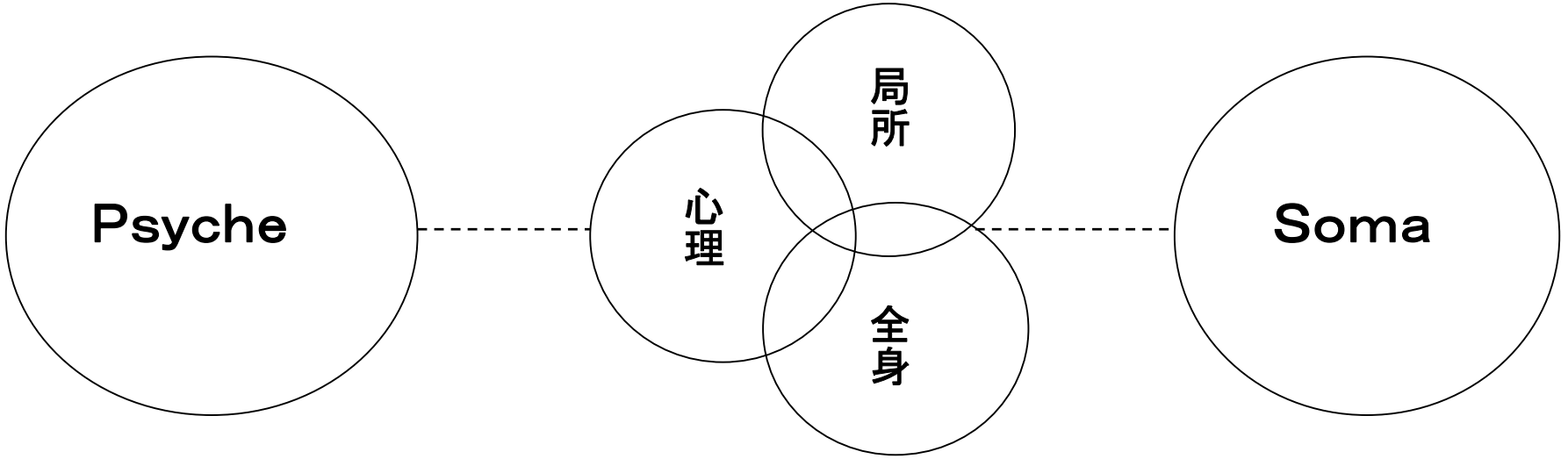
1983年：第1回咽喉頭異常感症研究会（大阪）
1996年：第16回咽喉頭異常感症研究会（札幌）で診療指針

咽喉頭異常感症の定義

患者が咽喉頭に異常感を訴えるが、通状の耳鼻咽喉科的視診によっては、訴えに見合うような器質的病変を局所に認めないもの



種々の咽喉頭異常感を訴え来院する患者に対し、
その原因となる疾患が明確になった場合には
原因疾患による咽喉頭異常感と診断され、
不明のものが**咽喉頭異常感症**と呼ばれる。
咽喉頭異常感症はひとつの
症候名である。



（三宅：咽喉頭異常感、耳喉　40，1974）

咽喉頭に異常感がなぜおこりやすいか

咽喉頭は呼吸道と消化道の交差する場所であり、
生命維持に非常に重要な機能であり過敏になりやすい。
一方、呼吸と食物摂取という2つの機能の入り口
にあたるため咽喉頭は汚染、刺激にさらされやすく、
慢性炎症などを伴いやすい

（大田より）

咽喉頭異常感症の疫学的特徴

頻度　:外来患者の5-10%

年齢・性別　:30－50　歳代に多く、女性が男性の1．2-2倍

病悩期間　:数日から数年、6ヶ月以内が多い

前医の有無　:ドクターショッピング

喫煙・飲酒　: 飲酒　男性49%、女性3%
喫煙　男性69%、女性7%　（山際）

癌不安　:76．6%
癌の家族歴　28．3%　（中西）

咽喉頭異常感の原因

- 局所的原因
  - 形態異常
    - 頚椎異常
    - 過長茎状突起
    - 舌根扁桃肥大
  - 甲状腺疾患
  - 腫瘤
    - 咽頭・喉頭悪性腫瘍
    - 咽頭・喉頭良性腫瘍
  - 気道過敏症
    - 下気道過敏症
    - 喉頭アレルギー
    - 鼻アレルギー
  - 炎症
    - 逆流性食道炎
    - 慢性気管支炎
    - 慢性喉頭炎
    - 慢性咽頭炎
    - 慢性扁桃炎
    - 慢性副鼻腔炎
    - 急性上気道炎後
- 全身的原因
  - 鉄欠乏性貧血
  - 内分泌異常
  - 嚥下力低下
  - 自律神経異常
- 精神的原因
  - ガン不安
  - 心身症
  - 神経症
  - 精神病

検査	頚椎異常	過長茎状突起	舌根扁桃肥大	甲状腺疾患	咽頭・喉頭悪性腫瘍	咽頭・喉頭良性腫瘍	下気道過敏症	喉頭アレルギー	鼻アレルギー	逆流性食道炎	慢性気管支炎	慢性喉頭炎	慢性咽頭炎	慢性扁桃炎	慢性副鼻腔炎	急性上気道炎後	鉄欠乏性貧血	内分泌異常	嚥下力低下	自律神経異常	ガン不安	心身症	神経症	精神病
問診				○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎		○	○	○	◎	◎	◎	◎
血液				◎			○	○	○								◎	◎						
内視鏡			○		◎	◎				◎		○	○		○									
レントゲン	○	○													○		○		◎					
CT・MRI	○			◎	◎	◎																		
呼吸機能検査							◎				◎													
その他				超音波				アレルギー検査		PPIテスト										心理テスト		心理テスト		

主　　訴（n＝724）

	男性 n＝304	女性 n＝420	計 n＝724
つかえる感じ	131	181	312
咽喉頭違和感	52	59	111
咽の異物感	32	47	79
圧迫感，腫脹感	23	39	62
痰がからむ・きれない	16	33	49
イガイガ・ヒリヒリ	14	27	41
いがらっぽい	11	19	30
嗄　　声	13	0	13
乾燥感，口渇	5	5	10
そ の 他	6	10	16

随伴症状（n＝724）

（　）は%

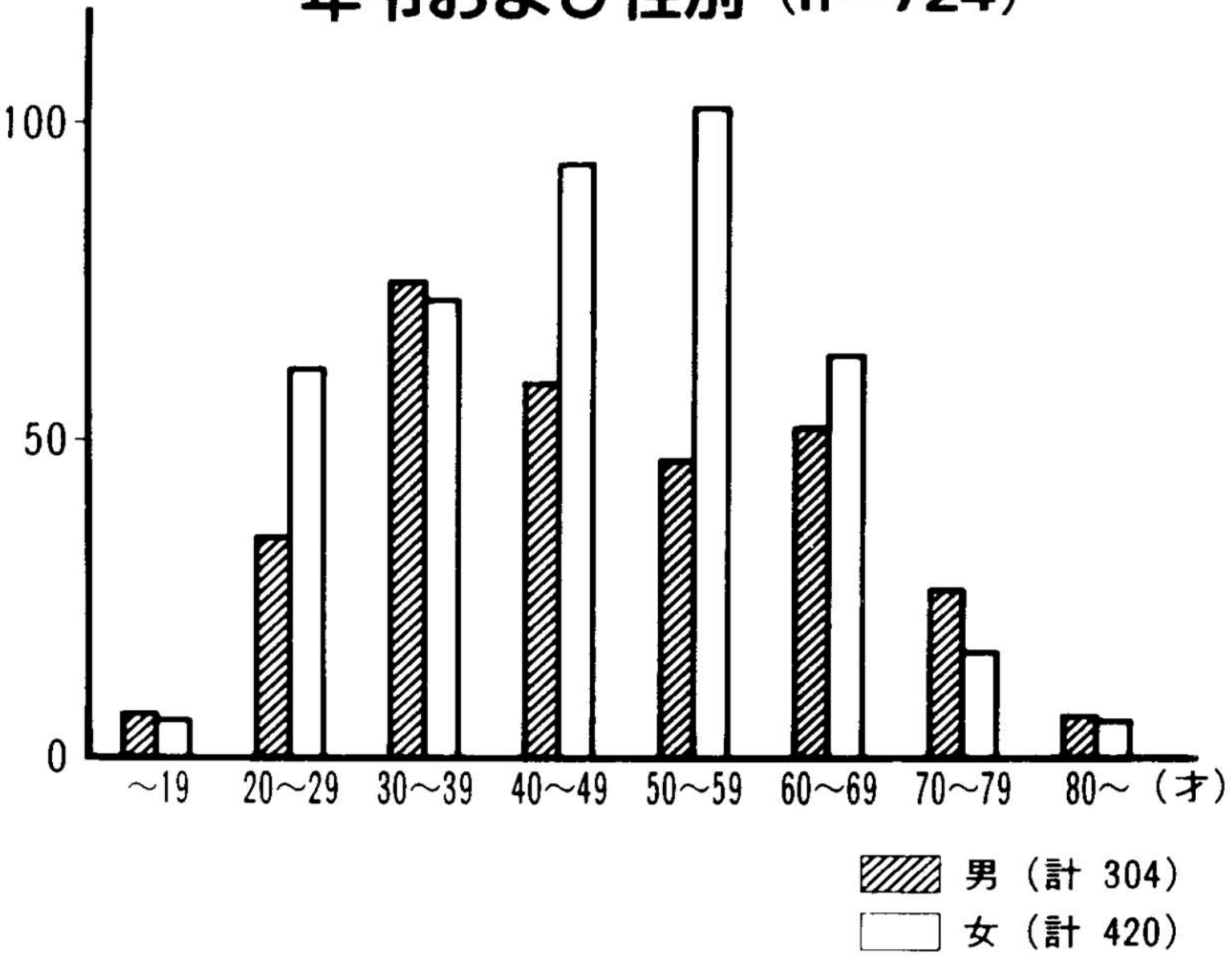
	男性 n＝304	女性 n＝420	計 n＝714
無	70	98	168
有	234 (77.0)	322 (76.7)	556 (76.8)
痰	98	104	202
咳	60	83	143
嗄　声	52	64	116
鼻　汁	40	46	86
ヒリヒリ，イガイガ	33	51	84
後鼻漏	26	42	68
くしゃみ	28	27	55
鼻　閉	32	21	53
乾燥，口渇	8	32	40
息苦しい	10	20	30
いがらっぽい	6	24	30
肩こり，だるい	6	18	24
癌が心配	7	8	15
めまい，難聴，耳鳴	6	9	14
嚥下困難	6	8	14
むせる	5	8	13
かゆい	3	8	11
その他	8	16	24

前医の有無（n＝724）

（　）は%

	男　性	女　性	計
有	130（42.8）	182（43.3）	312（43.1）
無	174	238	412
計	304	420	724

年令および性別（n＝724）

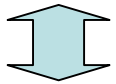


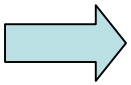
患者さんへの説明

1．**咽喉頭異常感(症)という病気の存在を知らせること。**

患者は咽喉頭異常感という病気を知らない。

医師の「なんでもない」は患者は理解できない





ドクターショッピングへ

自分はこんなに苦しんでいるのに。

初回診察時の「気のせい」「神経質すぎる」は禁句

2．咽喉頭異常感の原因が多岐にわたることの説明

順序だてた治療が必要

3．内視鏡所見などをビデオでみせる。

悪性腫瘍の否定

咽喉頭異常感患者問診のポイント　1

主訴の種類
- ①つかえる：食事中か空嚥下か
- ②痛み：ズキズキがイガイガ・ヒリヒリか
- ③嗄声：自覚か他人よりの指摘か

場所
- ①正中か左右に偏っているか
- ②固定しているか、移動するか

誘因
- ①有りか無しか
- ②ストレス
- ③癌不安

咽喉頭異常感患者問診のポイント　２

随伴症状

①鼻漏・
　後鼻漏

②咳嗽・痰

③胸焼け・
　ゲップ

→ 呼吸器症状 →
- 鼻炎
- 副鼻腔炎
- 鼻アレルギー
- 咽喉頭炎
- 喉頭アレルギー
- 慢性気管支炎
- 喘息

→ 消化器症状 →
- 胃食道逆流症

既往歴・家族歴
- ①アレルギ-疾患
- ②精神科疾患

咽喉頭異常感の薬物療法

初診時：投薬の目的説明後

1．所見がある場合（含む内視鏡）

①炎症：酵素剤、抗生物質

②アレルギー：抗アレルギ-剤、抗ヒスタミン剤

③その他：PPI（パリエットなど），気管支拡張剤

2．所見がない場合

①精神安定剤 ⟺ 患者への説明が必須

3．無投薬で経過観察

再診時：検査結果説明

咽喉頭異常感の変化聴取

再度診察

咽喉頭異常感の治療のポイント

悪性腫瘍の除外

重度の精神疾患の除外

A. 精神的治療＝この場合は十分な説明を意味する。
患者の訴えをよく聞き、検査・診断・治療についての説明

B. 薬物治療
種々の薬剤が用いられるが、無投薬の場合は再診率が下がる。

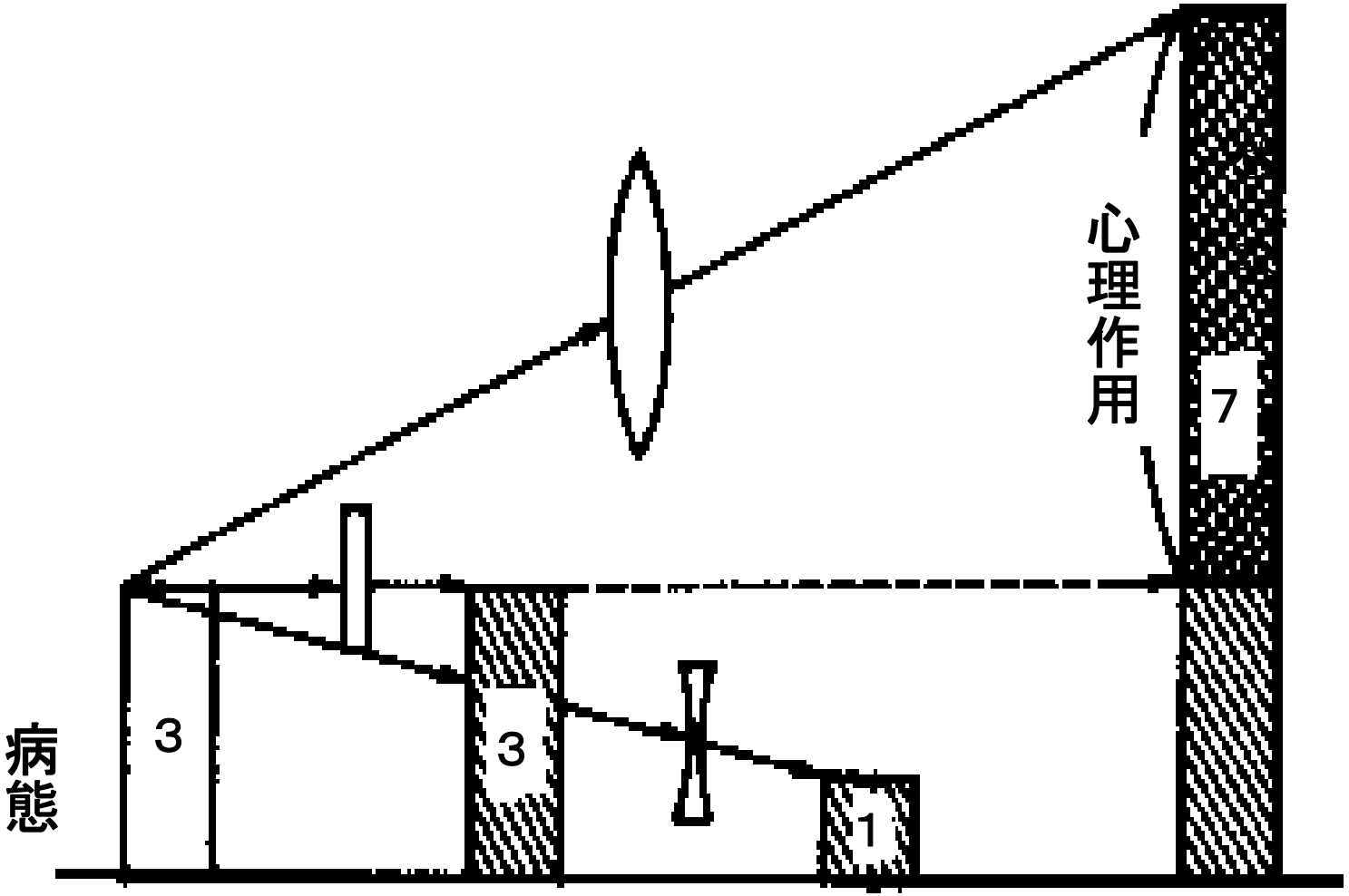
C. 経過観察
軽快・憎悪を繰り返すが患者は安心している。
ドクターショッピングをしない。

咽喉頭異常感を主訴とした頭頸部悪性腫瘍症例

喉頭癌	100例中	15例（15．0%）
上咽頭癌	14	2 （14．3）
中咽頭癌	8	4 （50．0）
下咽頭癌	15	4 （26．7）

（山下：咽喉頭異常感に対する内視鏡検査（JOHNS 15，1999）

咽喉頭異常感の心理的要因



（日野原より）

精神的検査法:心理テスト(質問紙法)

Ⅰ. 健康調査(神経症、心身症、自律神経失調症)

1. **CMI (Cornell medical index)**

2. KMI (九大式自律神経症状調査表

Ⅱ. 性格の評価

1. 矢田部ーギルフォード

2. エゴグラム

Ⅲ. 不安の評価

1. MAS (Manifest anxiety scale)

2. STAI(state－trate anxiety inventory)

Ⅳ. 抑うつの評価

1. SDS(self－rating depression scale)

2. SRQ－D(self－rating questionnaire for depression)

CMI領域

男性

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	異常域出現率(%)
健康人 n＝50	27	17	6	0	12.0
咽喉頭異常感 n＝50	21	19	9	1	20.0

女性

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	異常域出現率(%)
健康人 n＝50	31	16	2	1	6.0
咽喉頭異常感 n＝50	19	16	9	6	30.0 ＊＊

＊：$p<0.05$

＊＊：$p<0.01$

咽喉頭異常感に対する
Ethyl Loflazepate治療効果

対　象

咽喉頭異常感を主訴とし東邦大学大橋病院耳鼻咽喉科を受診しEthyl　Loflazepateを投与された157例のうち経過を追うことができた130例

投与内容

Ethyl　Loflazepate（1mg）2tabを
就寝前1-2週投与

130例の内訳

A. 初診時に咽喉頭に異常所見を認めず
Ethyl Loflazepate投与
１ 検査でも異常を認めなかったもの 44例
２ 検査で異常所見が認められた 29例

B. 初診時咽喉頭に異常所見を認めたが
Ethyl Loflazepate投与 26例

C. 初診時咽喉頭に異常所見を認め
他剤投与後経過不良にて
Ethyl Loflazepateを投与した 31例

咽喉頭異常感患者に対するEtyl Loflazepateの治療効果

	消 失	著 効	有 効	やや有 効	無 効	有効率
診察所見なし E.L投与後の検査所見も異常なし n＝44	13	10	12	0	9	79.5%
診察所見なく E.L投与後の検査所見異常あり n＝29	8	8	2	1	10	62.1%
診察所見あるもあえてE.L投与 n＝26	4	2	7	5	8	50.0%
診察所見あり他剤投与その後E.Lへ変更 n＝31	5	14	8	3	1	87.1%
全 130例	30	34	29	9	28	71.5%

有効率：効果有効以上

咽喉頭異常感患者の原因

n＝130

心　　因	44例(33.8%)	
局所的原因	83例(63.8%)	
局所炎症	32例	
気道過敏症	37	
胃食道逆流	5	
形態異常	3	
局所腫瘤	3	
甲状腺	2	
喉頭アレルギー	1	
全身的原因	3例(2.4%)	
鉄欠乏性貧血	2	
パーキンソン	1	

咽喉頭異常感の原因別E・Lの治療効果

		消　失	著　効	有　効	やや有　効	無　効	有効率
心　　因	44	13	10	12	0	9	79.5%
局所的原因	83	14	20	16	10	23	60.2%
局所炎症	32	6	9	10	2	5	78.1%
気道過敏症	37	7	9	4	6	11	54.1%
胃食道逆流	5	1	1	1	0	2	60.0%
形態異常	3	0	0	0	0	3	0
局所腫瘤	3	0	1	0	1	1	33.3%
甲状腺	2	0	0	0	1	1	0
喉頭アレルギー	1	0	0	1	0	0	100%
全身的原因	3	0	1	1	0	1	66.7%
鉄欠乏性貧血	2	0	1	0	0	1	50.0%
パーキンソン	1	0	0	1	0	0	100%

有効率：効果有効以上

咽喉頭異常感症例

局所的原因

- 炎症
- 腫瘤
- 腫瘍：良性・悪性
- 喉頭アレルギー
- 下気道由来の咽喉頭異常感
- 逆流性食道炎

全身的原因

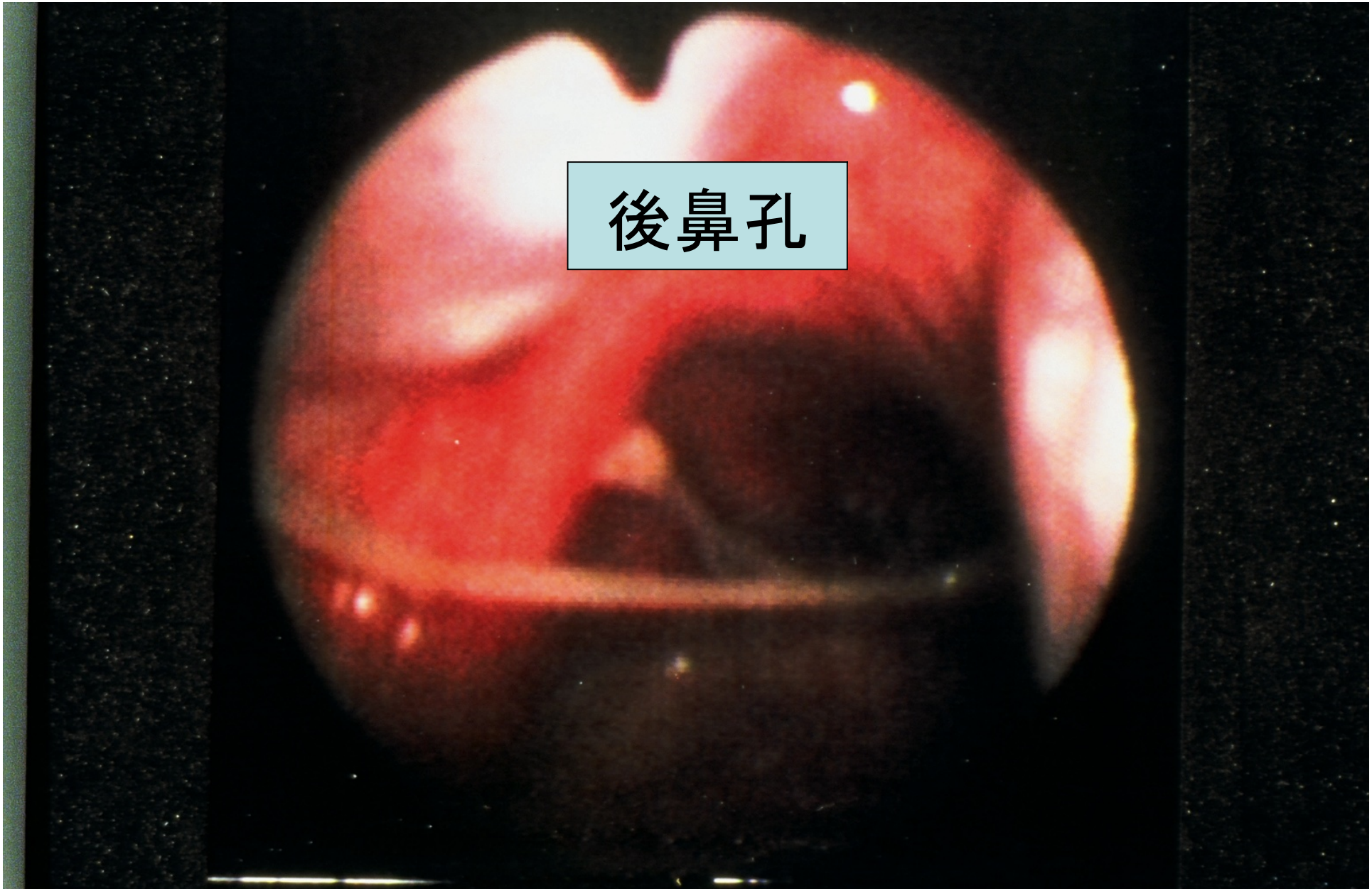
精神的原因

症例　60歳　男性

主訴：咽喉の異物感、鼻声
現病歴：3ヶ月前にカゼをひいた後から咽喉に
　　何か張り付いた感じする。
　　鼻声も気になる。嚥下痛、嚥下困難はない。
既往歴：特記すべきことなし。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
カゼ後の後鼻漏による咽喉頭異常感と診断し、
マクロライド系抗菌剤と酵素剤投薬にて後鼻漏、
咽喉頭異常感消失した。

後鼻漏（カゼ後）による異常感

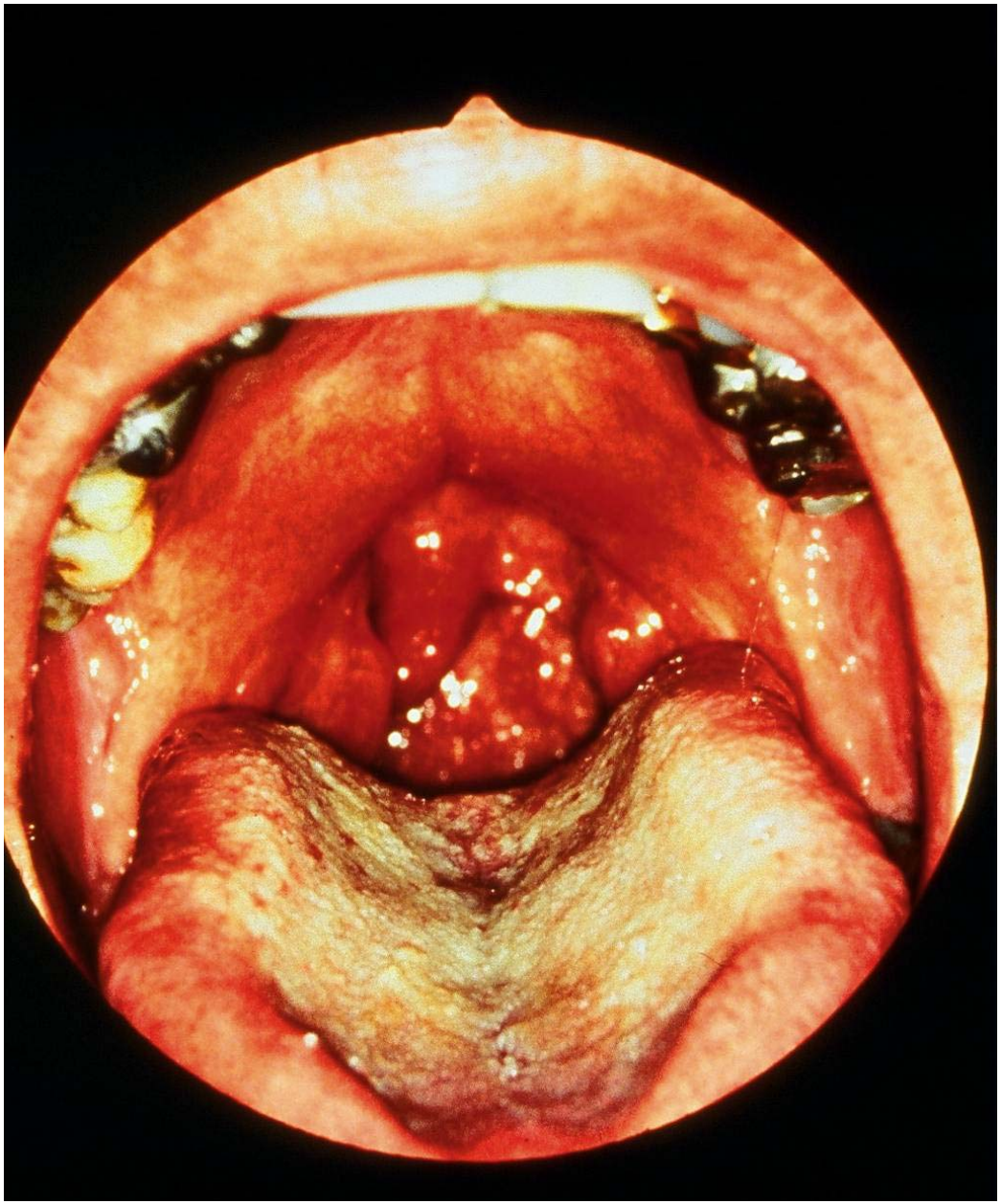


症例　31歳　女性

主訴：咽喉頭異常感
現病歴：数年前から咽喉頭異常感出現、
　　咳嗽、痰はない。
嚥下痛、嚥下困難、嗄声はない。
既往歴：扁桃腺炎を起こしやすい。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
　口蓋扁桃圧迫にて膿汁を認める。ペニシリン系
　抗菌薬投与にて咽喉頭異常感消失。

慢性扁桃腺炎

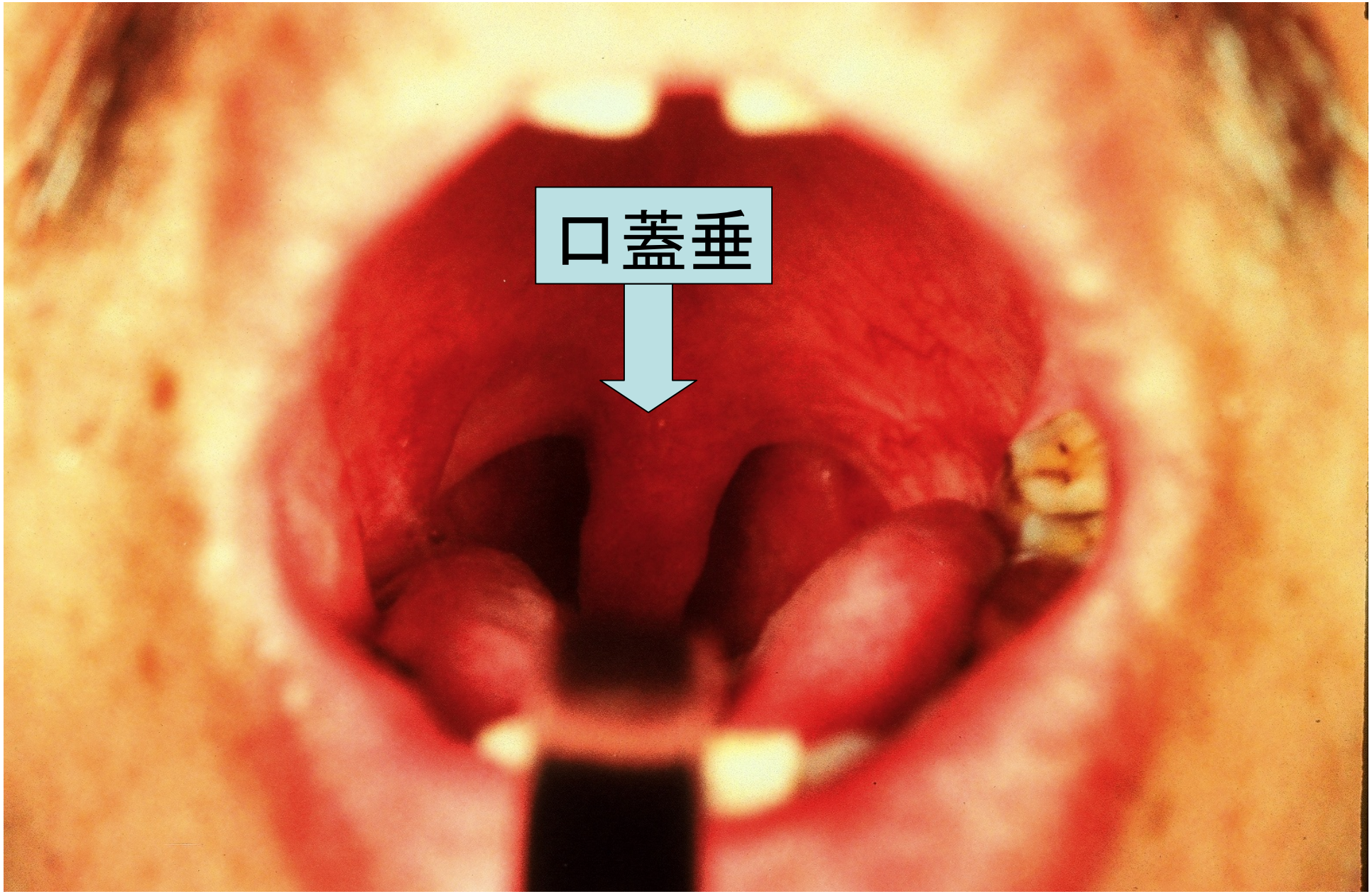


症例　53歳　男性

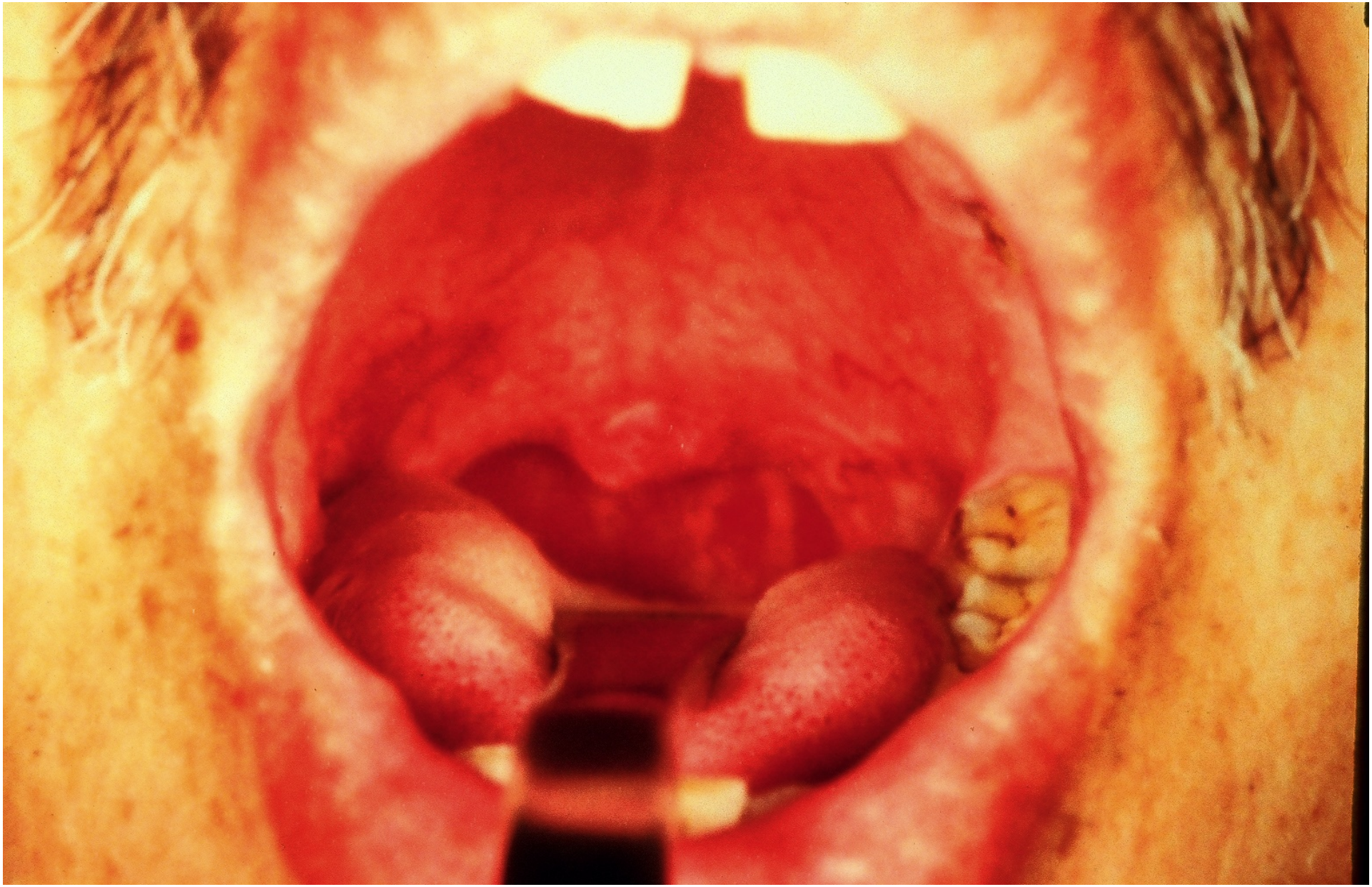
主訴：咽喉の異物感
現病歴：いつからか不明であるが咽喉の異物感出現。
　　頭を右下で右、左下で左に咽喉の異物感あり。
　　食事との関係ない。
　　嚥下痛、嚥下困難、嗄声は無い。
既往歴：高血圧にて内服。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
　口蓋垂過長と診断しレーザー切除にて異物感消失。

口蓋垂の過長



口蓋垂レーザー切除後



症例　41歳　女性

主訴：嗄声
現病歴：3年前から嗄声出現、最近ひどくなり、
　　咽喉の違和感も強く受診。咳嗽、痰なく、
　　嚥下痛、嚥下困難もない。職業上声を酷使する。
既往歴：特記すべきことなし。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
　ファイバースコープにて左側声帯ポリープを認める。
喉頭微細手術施行し嗄声、違和感消失す。

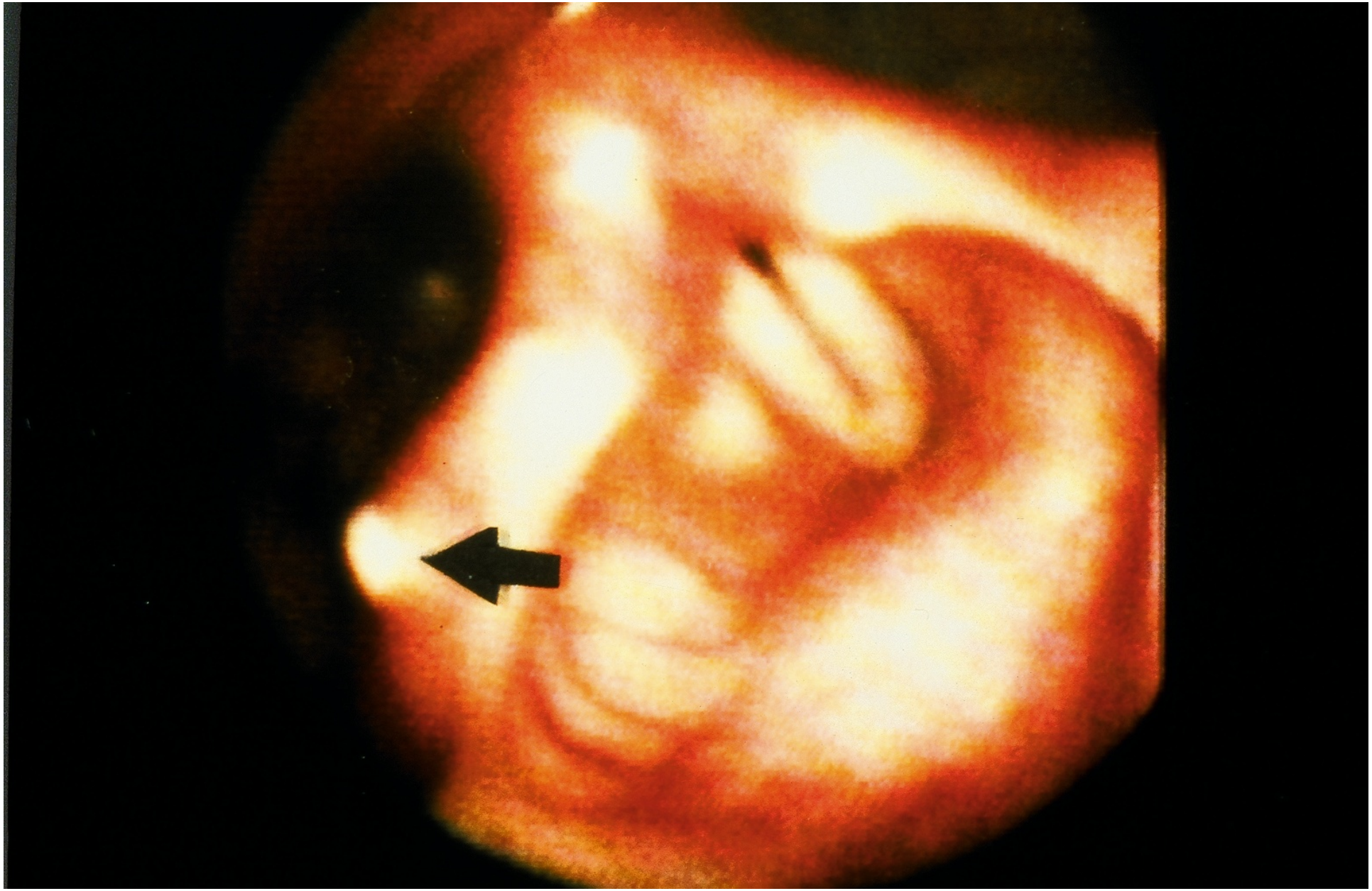
左側声帯ポリープ

症例　73歳　女性

主訴：右側咽喉の異物感
現病歴：2ヶ月まえから咽喉の異物感出現。
　　咳嗽・痰なく、咽頭痛。嚥下痛、嗄声もない。
既往歴：特記すべきことなし。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
ファイバースコープ検査にて喉頭披裂部に
白色隆起性病変あり。内視鏡下に摘出し異物感
消失す。病理検査では放線菌。

喉頭放線菌症

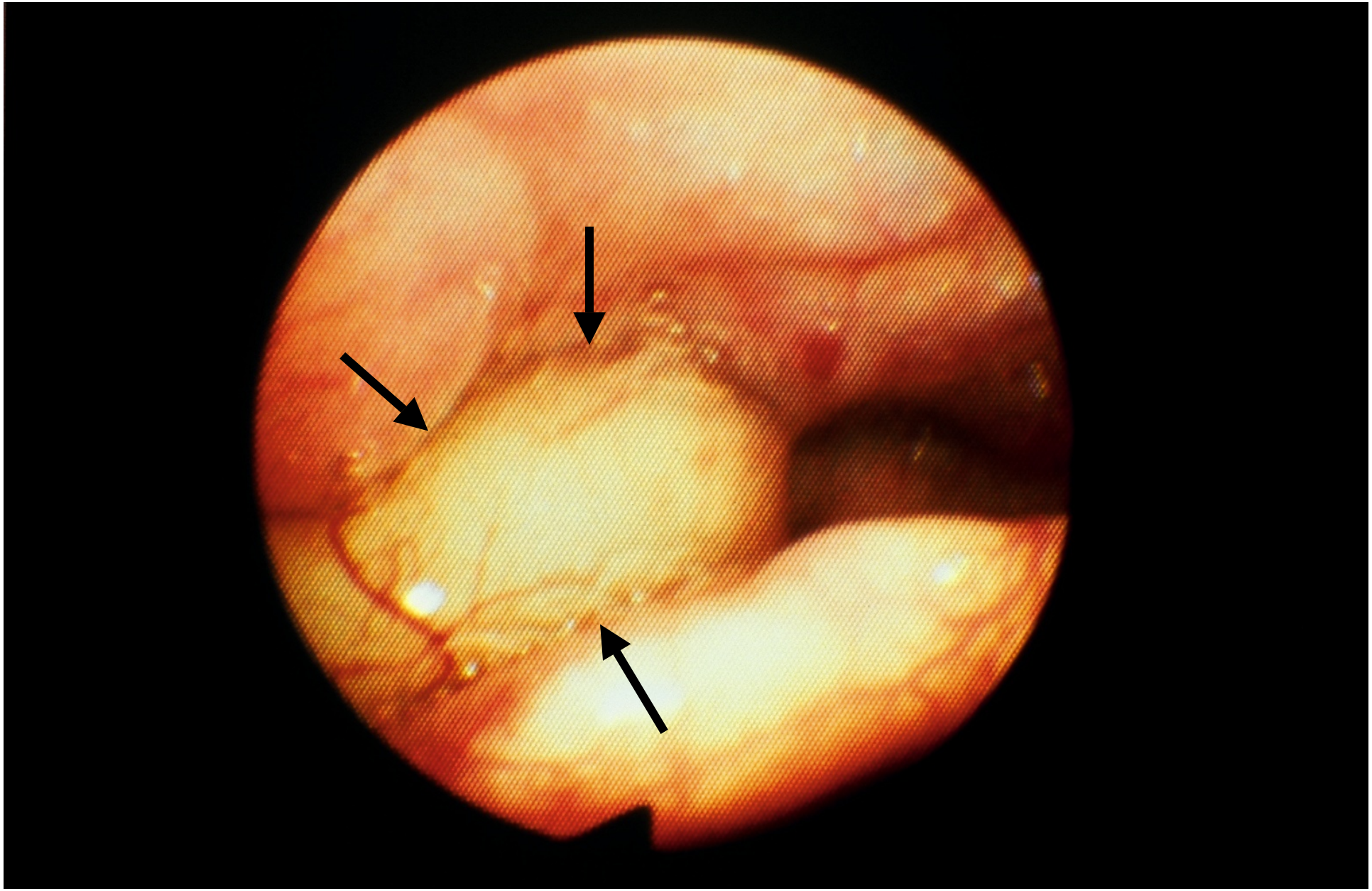


症例　74歳　女性

主訴：咽喉の異物感
現病歴：４日前に錠剤を飲んだ時ひっかかった
感じがし、その後異物感がとれない。
食事中は問題なく、咽頭痛、嚥下痛、
嚥下困難もない。
既往歴：特記すべきことなし。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
ファイバースコープ検査にて喉頭蓋嚢胞を認める。
嚢胞による咽喉頭異常感の可能性と安全性説明し
このまま様子観察とする。

喉頭蓋嚢胞

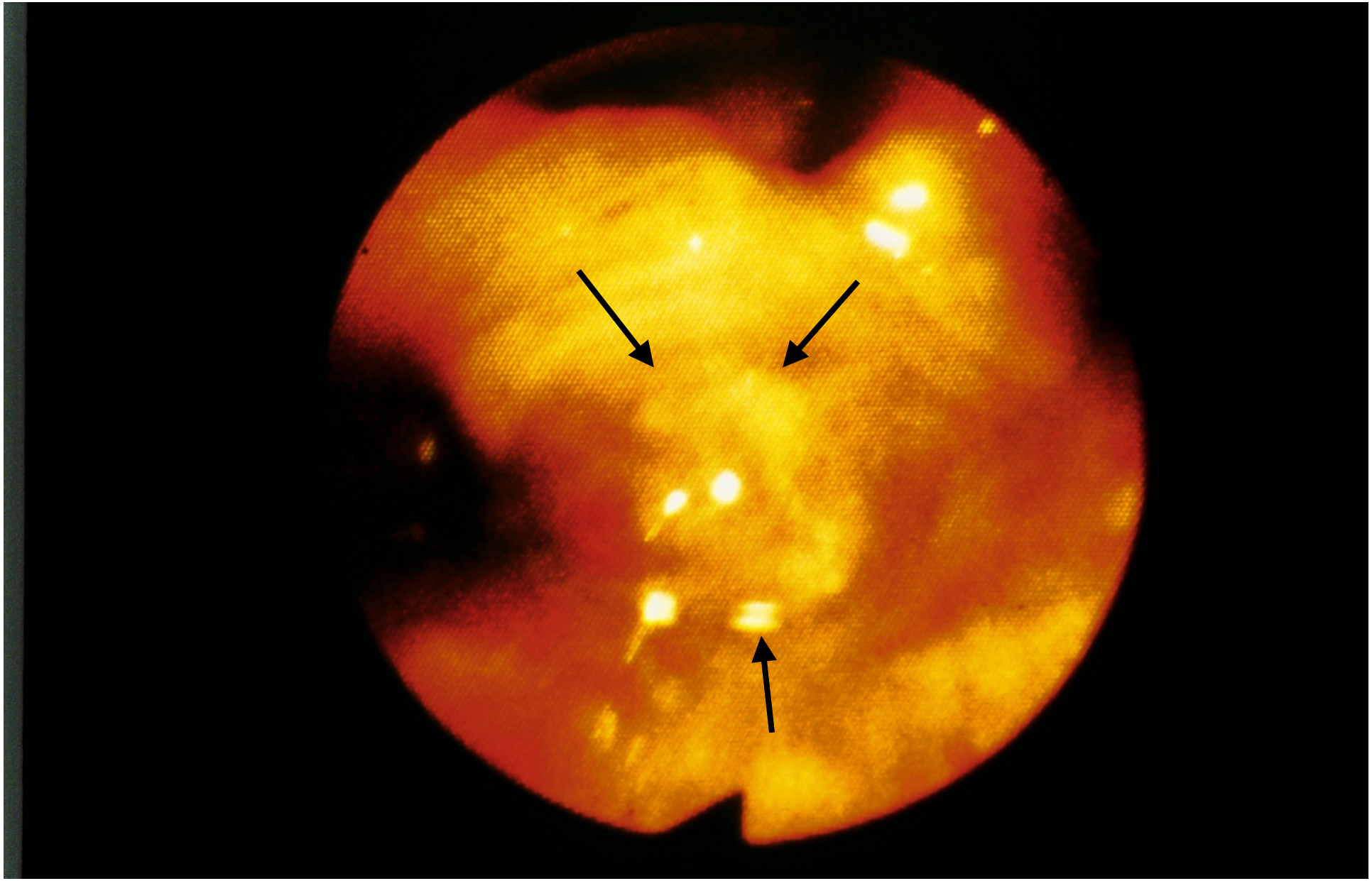


症例　74歳　女性

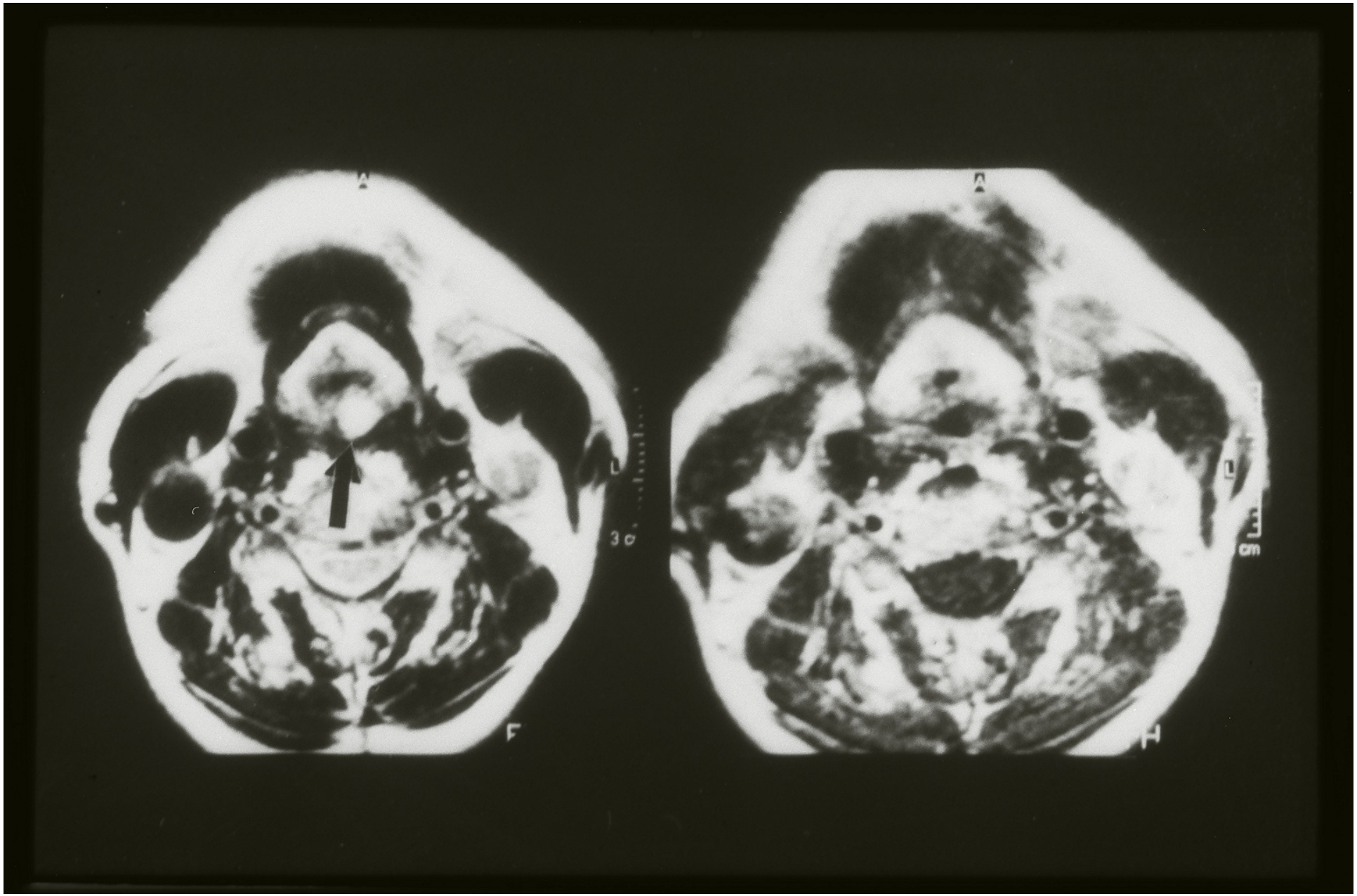
主訴：咽喉頭異常感、嗄声
現病歴：数ヶ月前から咽喉頭異常感出現、
　　嗄声も出現してきたため受診。
　　咳嗽、痰なく、嚥下痛、嚥下困難もない。
既往歴：特記すべきことなし。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
　ファイバースコープにて喉頭披裂部に暗赤色の
　柔らかい腫瘤を認めた。MRI検査T2強調像で腫瘤病変。
　喉頭血管腫の診断にて喉頭微細手術施行、
　KTPレーザーにて摘出す。異物感消失した。

喉頭血管腫



喉頭血管腫（T2強調）

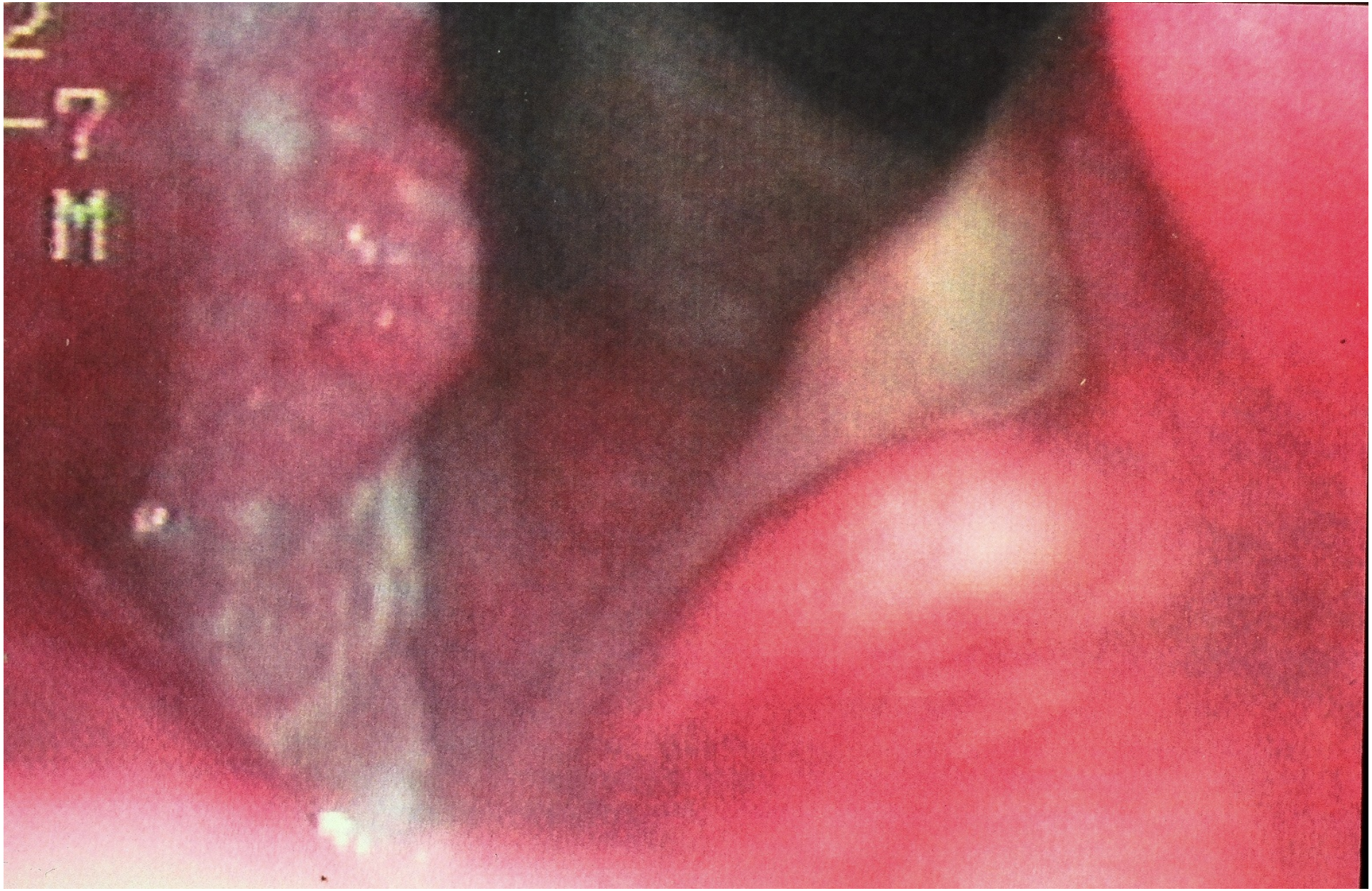


症例　７３歳　男性

主訴：咽喉の異物感
現病歴：４ヶ月前から咽喉に異物感があり嗄声も
出現してきた。咽頭痛、嚥下痛、嚥下困難
はない。咳嗽、痰もない。
既往歴：特記すべきことなし。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
ファイバースコープ検査で右声帯に限局する隆起性
病変あり。喉頭腫瘍の疑いにて喉頭微細手術施行。
病理組織検査で扁平上皮ガン。
T1aN0M0にてレーザー手術後、放射線６４G照射す。

喉頭癌（T1aN0M0）

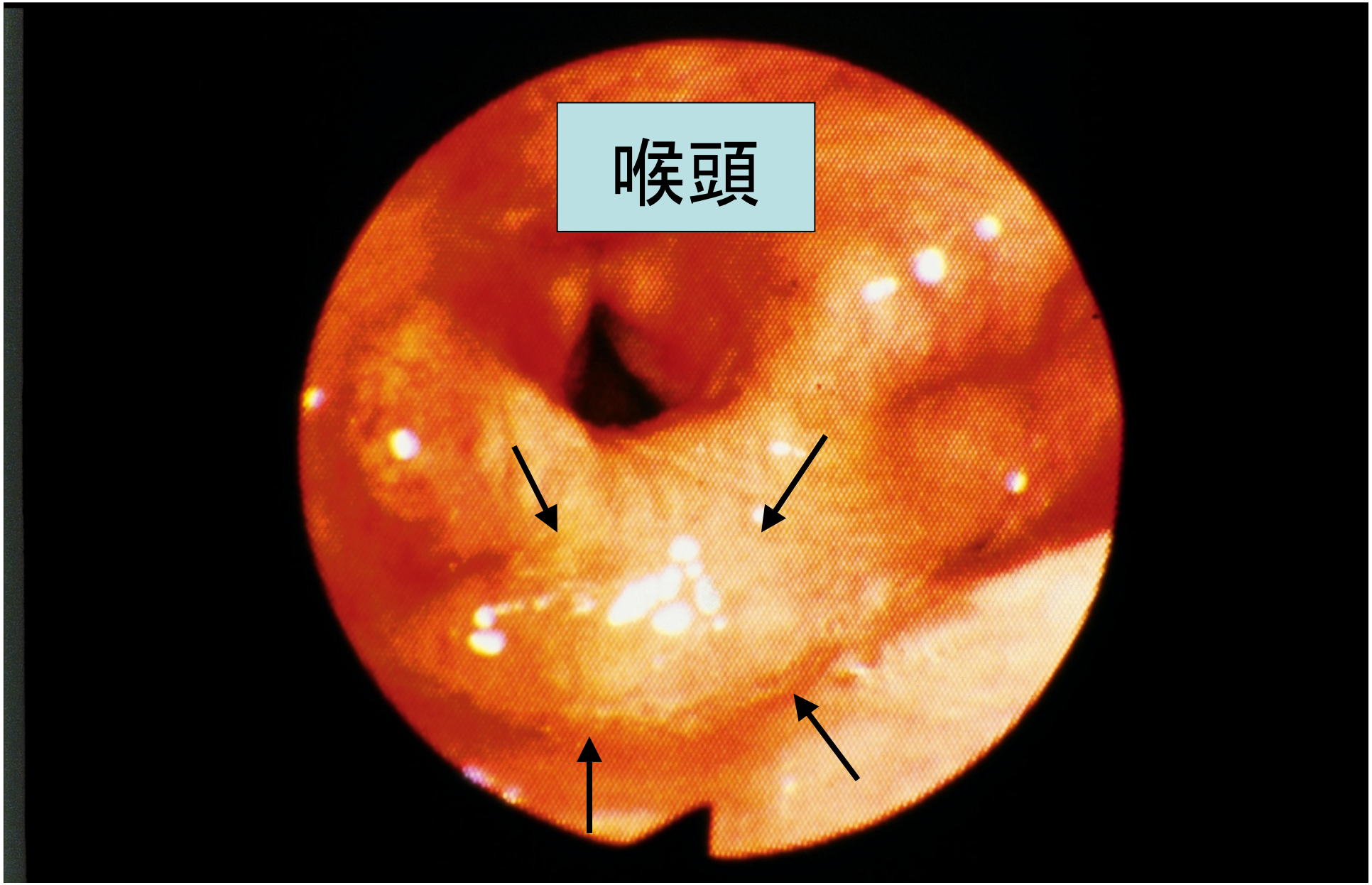


症例　46歳　男性

主訴：咽喉頭部のイガラッポイ感じ
現病歴：2週間前から誘因なく、乾性の咳嗽発作出現、
　　また同時に咽喉がイガラッポクなった。
　　咳嗽は夜間に多く、発作性である。
咽頭痛、嚥下痛、嚥下困難、嗄声はない。
既往歴：20年前に虫垂炎。アレルギー疾患はない。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
　喉頭アレルギーと診断し抗アレルギ-剤
（アゼプチン2mg）投与で改善

喉頭アレルギー：披裂部粘膜の浮腫・腫脹

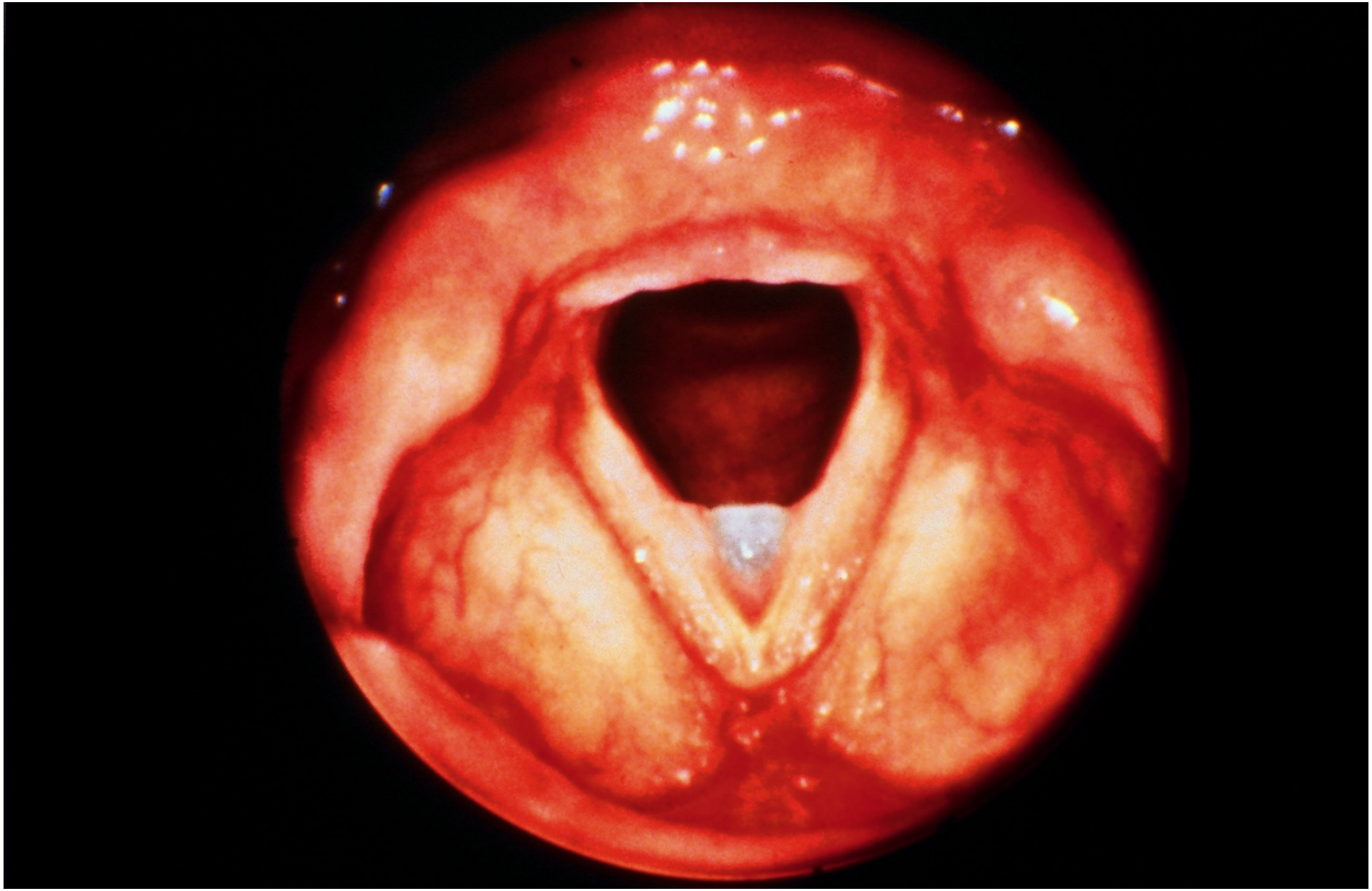


症例　60歳　女性

主訴：咽喉のカサカサ感
現病歴：半年前にカゼをひいた。その後、咽喉に
　　痰がからんだ感じがするが痰がでない。
既往歴：特記すべきことなし。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
ファイバースコープ検査にて声門に痰の付着を認める。
フロー・ボリュウム検査で喘息パターン。
下気道由来の咽喉頭異常感と診断し、ステロイド剤、
気管支拡張剤投与し咽喉頭異常感消失した。

下気道由来の咽喉頭異常感

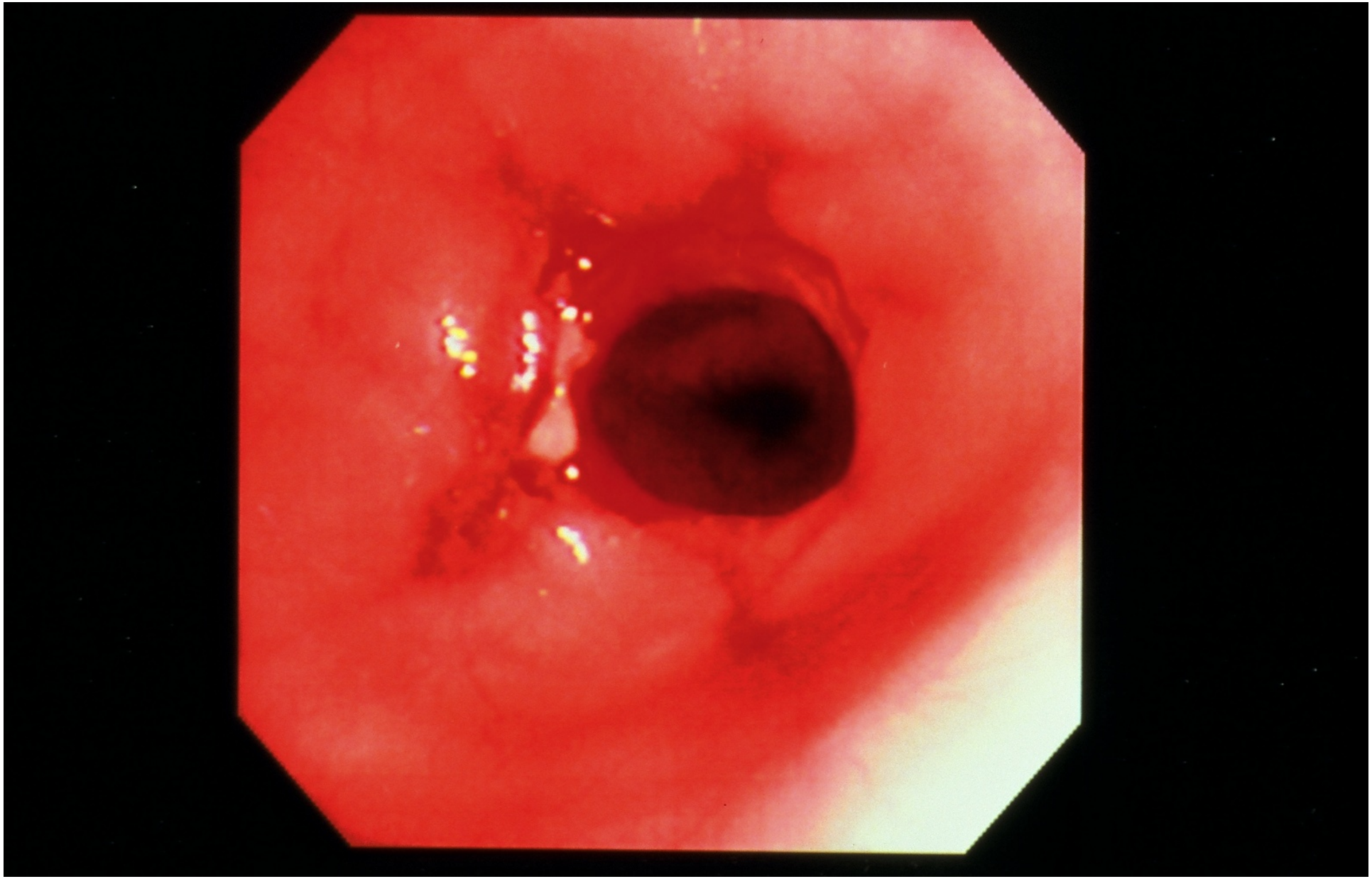


症例　44歳　女性

主訴：咽喉のつかえ感
現病歴：1年前よりのどの正中部につかえ感出現
6ヶ月前に耳鼻咽喉科受診するも異常なし。
胸焼けやゲップは無いが横になると飲んだものが逆流する感じ。
嗄声、咽頭痛、嚥下痛、嚥下困難はない。
既往歴・家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
逆流性食道炎による咽喉頭異常感と診断、
プロトンポンプ阻害剤（パリエット10mg）投与で改善

胃食道逆流症



症例　45歳　女性

主訴：咽喉に何か塊がある
現病歴：1年半前に舌が赤くただれた。耳鼻咽喉科・
　　内科受診するも異常なし。口角のただれも
　　出現し、また最近息苦しさもあり当科受診。
既往歴：特記すべきことなし。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
舌炎あり。
採血でRBC 312万、Hb 5.2g/dl,血性鉄11μg/dl。
食道透視異常なし。
鉄欠乏性貧血による咽喉頭異常感と診断し鉄剤投与にて
咽喉頭異常感消失す。

症例　67歳　男性

主訴：咽喉頭異常感
現病歴：7年前から咽喉に何か張り付いている
感じがする。痰が切れない感じがする。
数箇所の耳鼻咽喉科受診するも
「なんともない」「気にしすぎ」といわれている。
既往歴：特記すべきことなし。
家族歴：特記すべきことなし。

診断・治療
ファイバースコープ検査はじめ種々検査行うも異常なく
咽喉頭異常感症と診断。酵素剤投与するも無効。
マイナートランキライザー投与にて症状消失す。